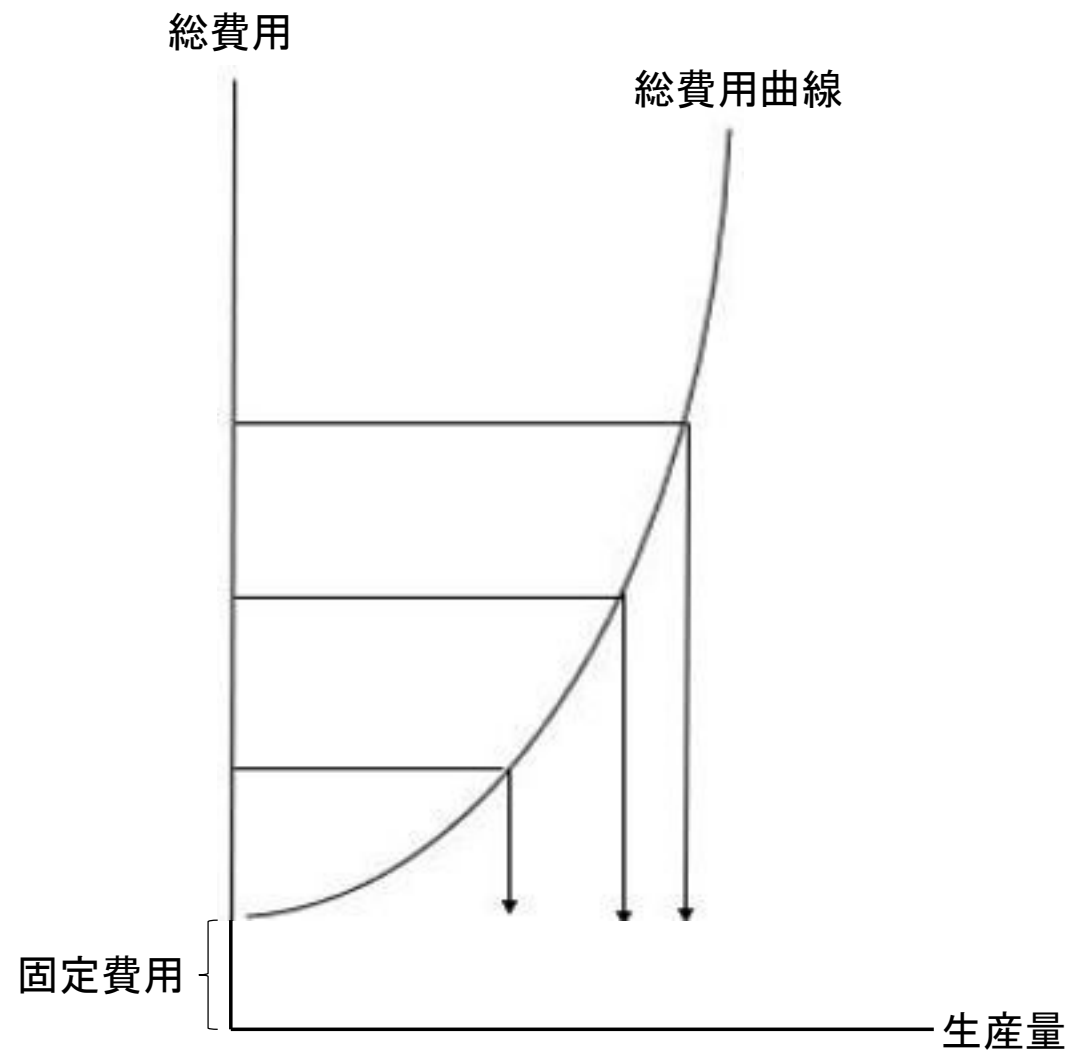
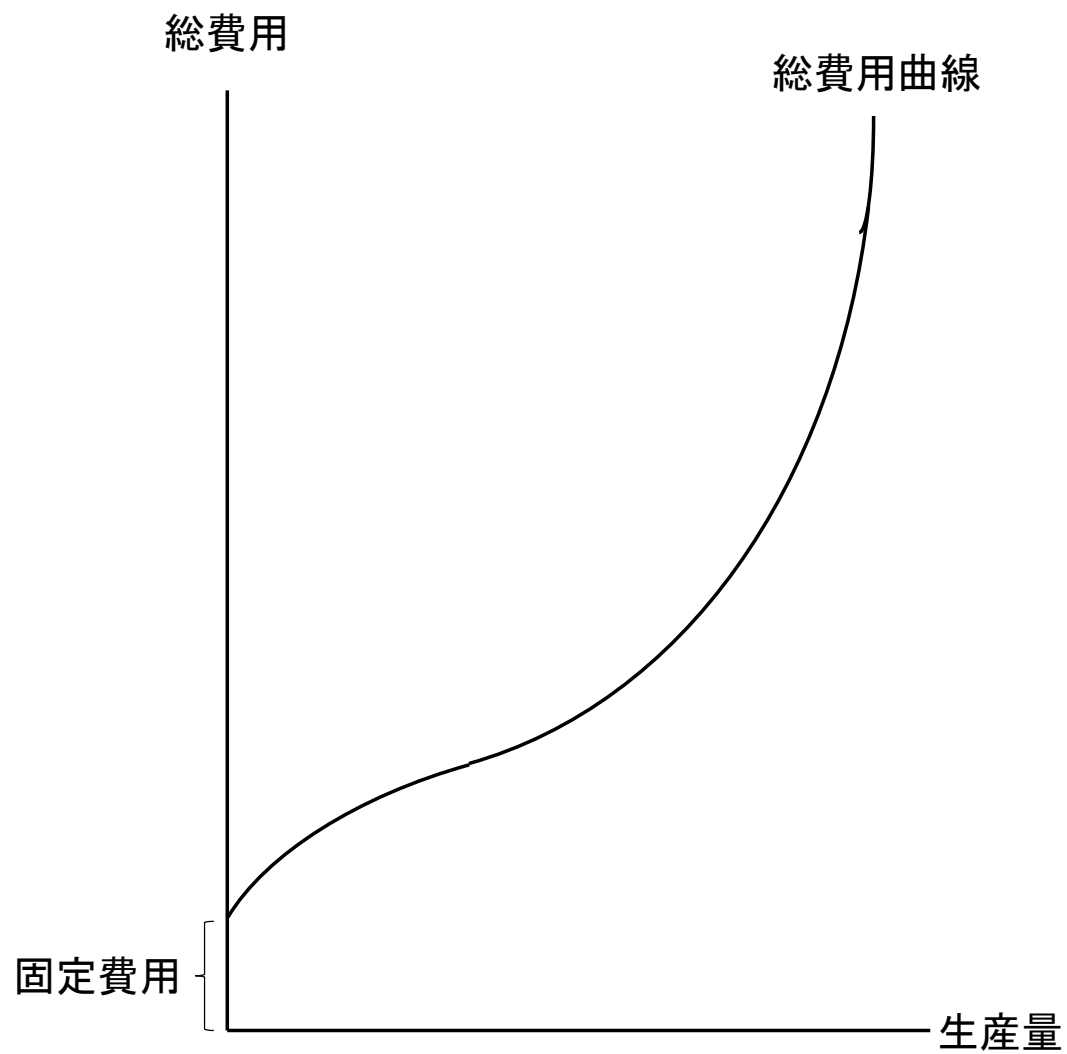
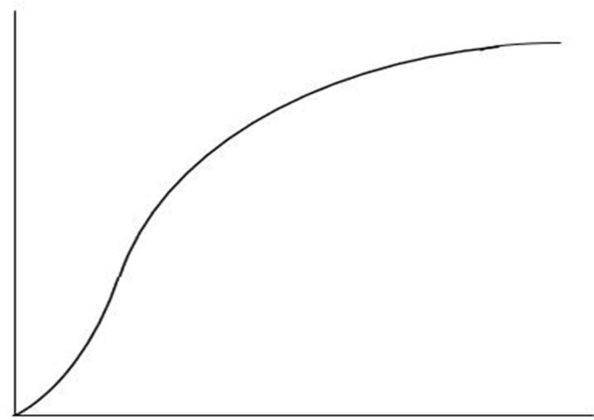
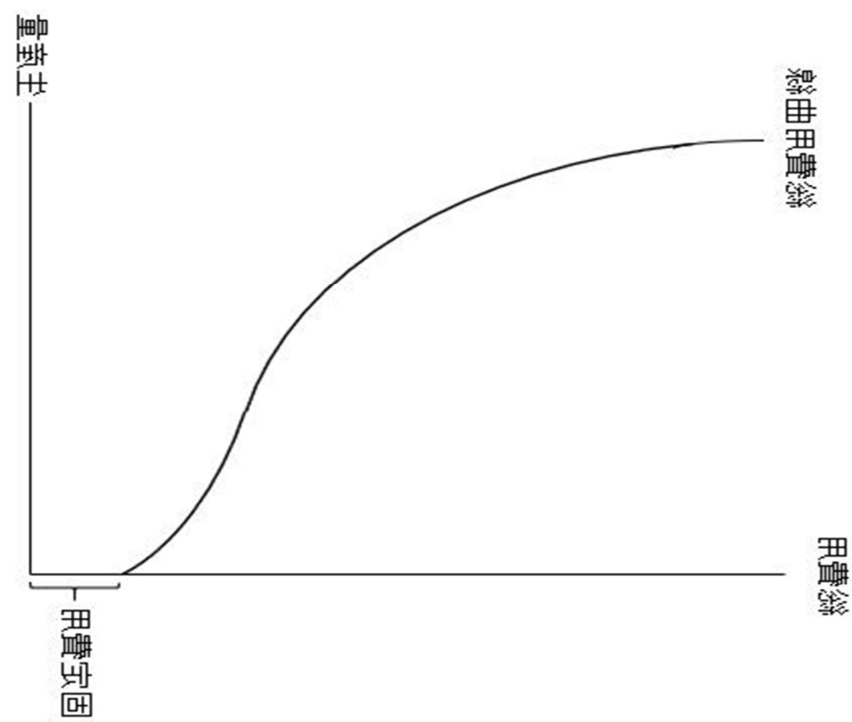
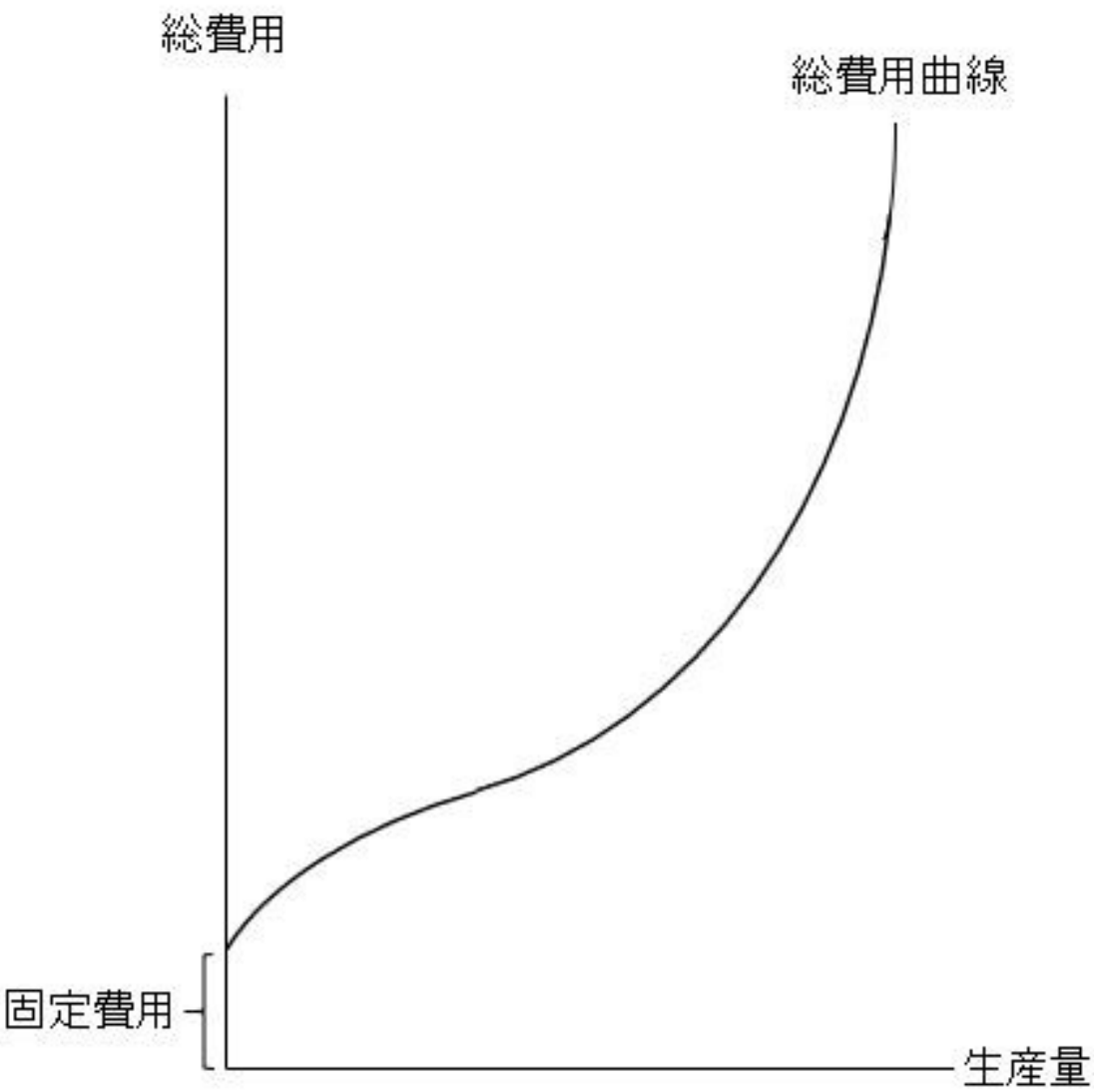


ミクロ経済学 演習2020 第7回 (June/22)

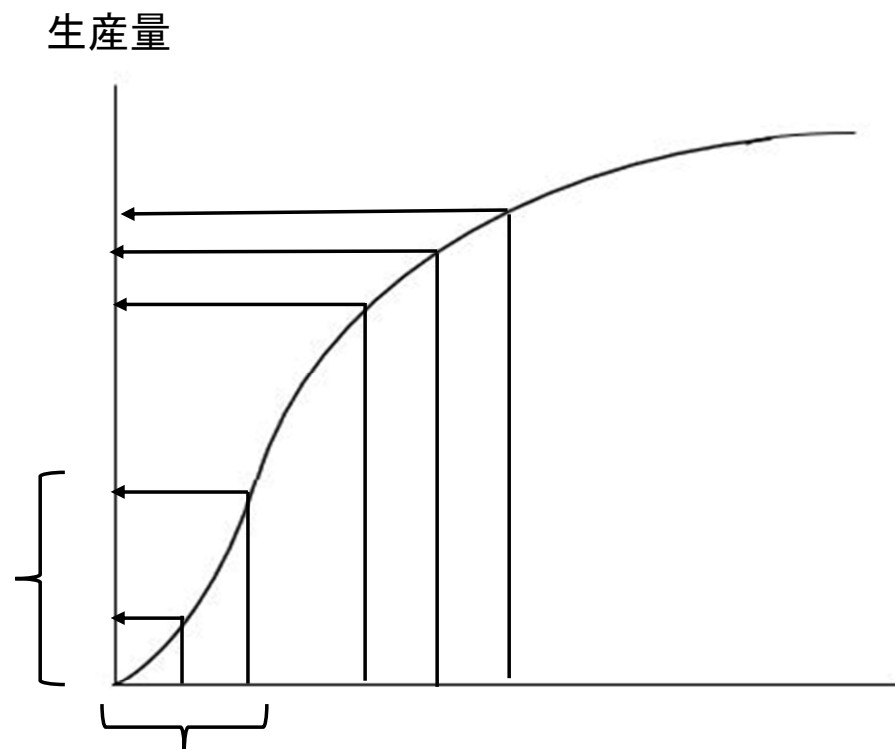
・2019年6月13～15日は私は四国の愛媛県松山市というところに出張してました。

「ちょっと待った。ミクロ経済学の授業でよく見る総費用曲線はこんな形なんですけど！」





もとの生産関数の切り口が、こんな形だった、という暗黙の想定が、ある！



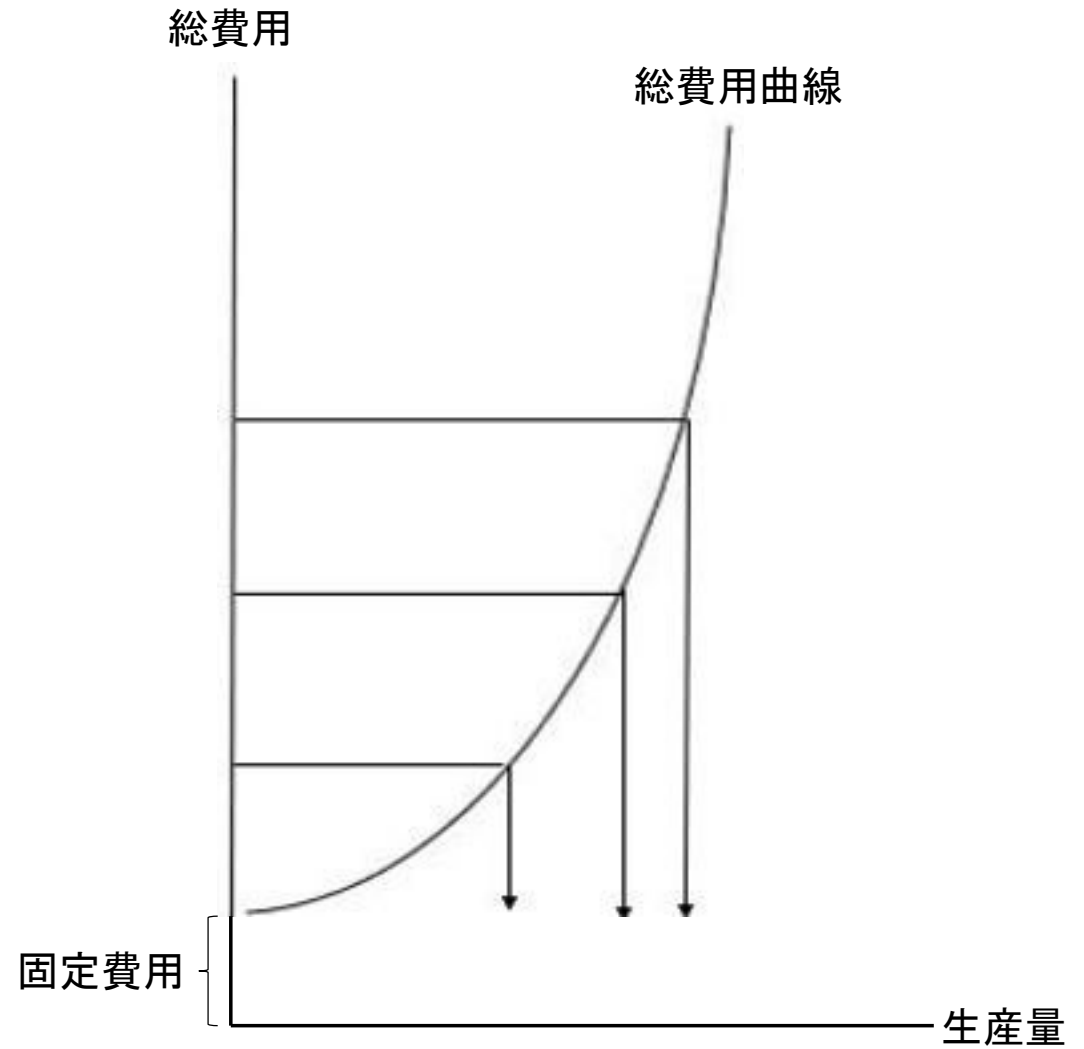
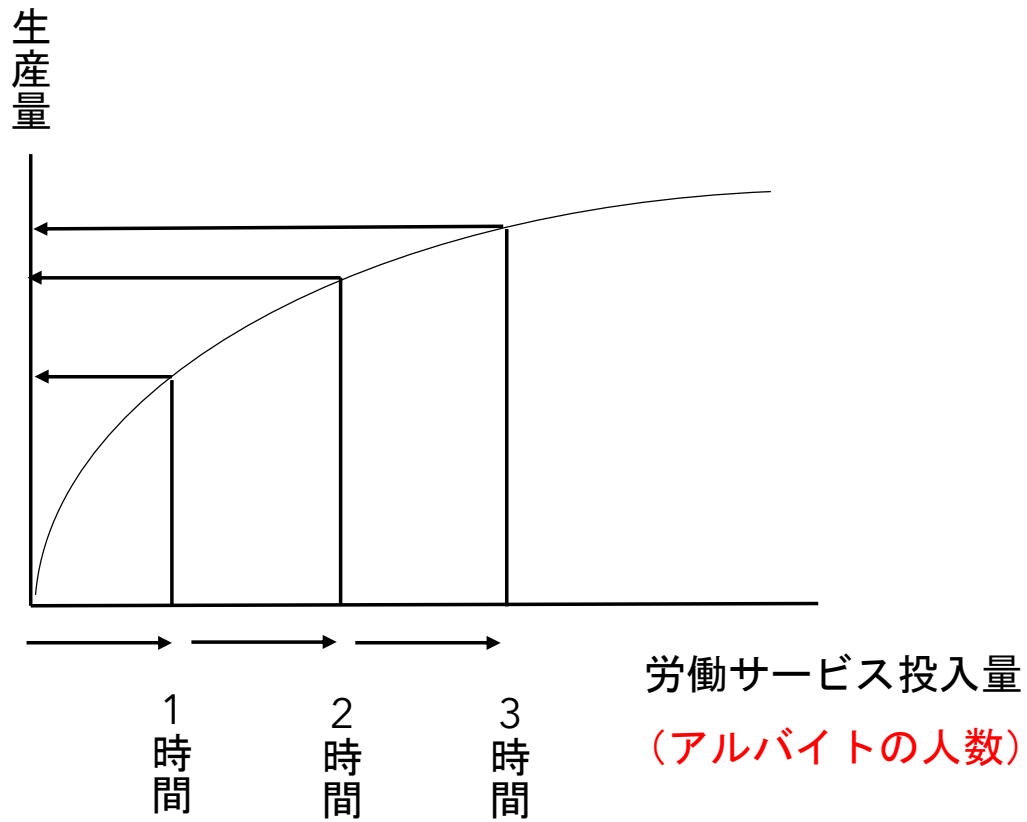
けど、（バイトの数と生産量が）ある程度以上になると、あとはバイトが増えても生産量の伸びは頭打ち的になっちゃうよね。。

労働サービス投入量
(アルバイトの量)

生産というのは、最初のうち（一人で仕事しているとき）は助っ人がもう一人来てくれると一気に生産が増える（2倍以上にぐっと伸びる）よね。

ということで、生産関数の切り口の形がこんなだと・・・

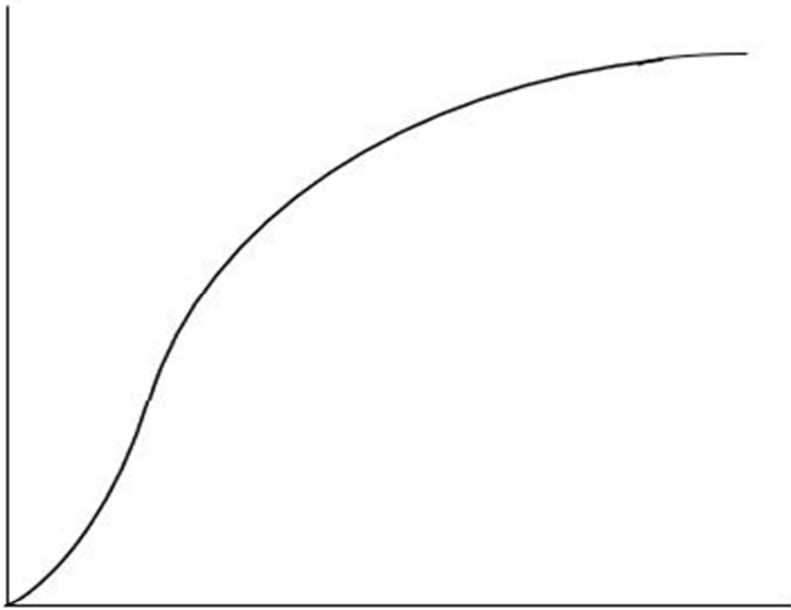
総費用曲線はこんなふうになる。。。



ということで、生産関数の切り口の形がこんなだと・・・

総費用曲線はこんなふうになる。。。

生産量



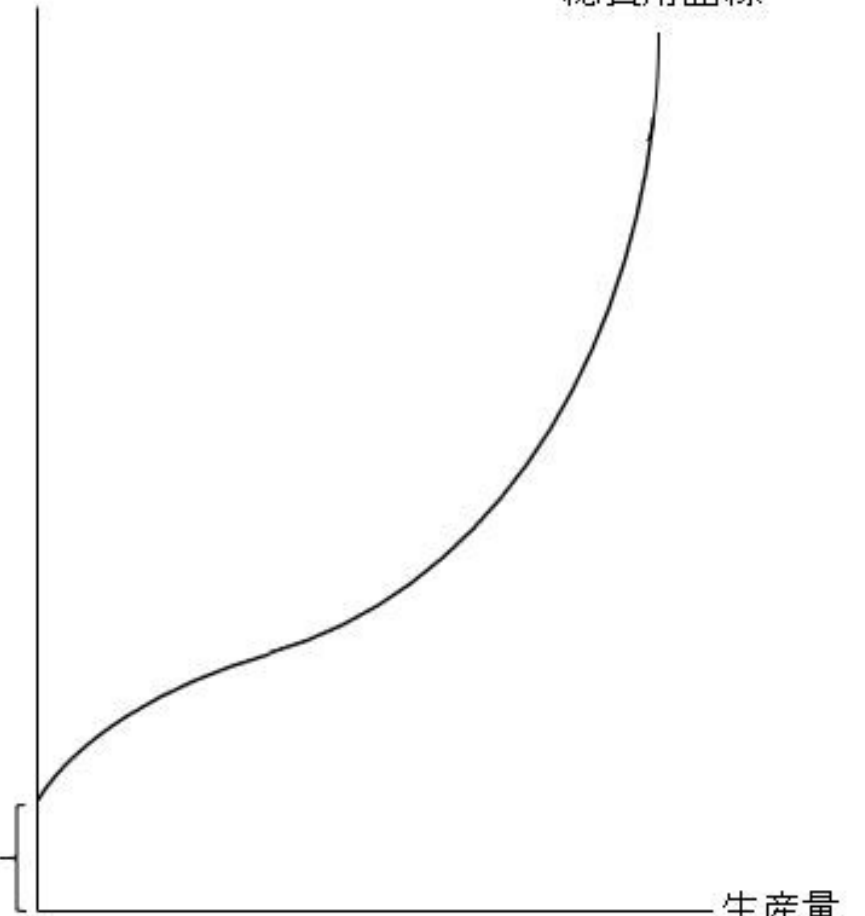
労働サービス投入量
(アルバイトの量)

総費用

総費用曲線

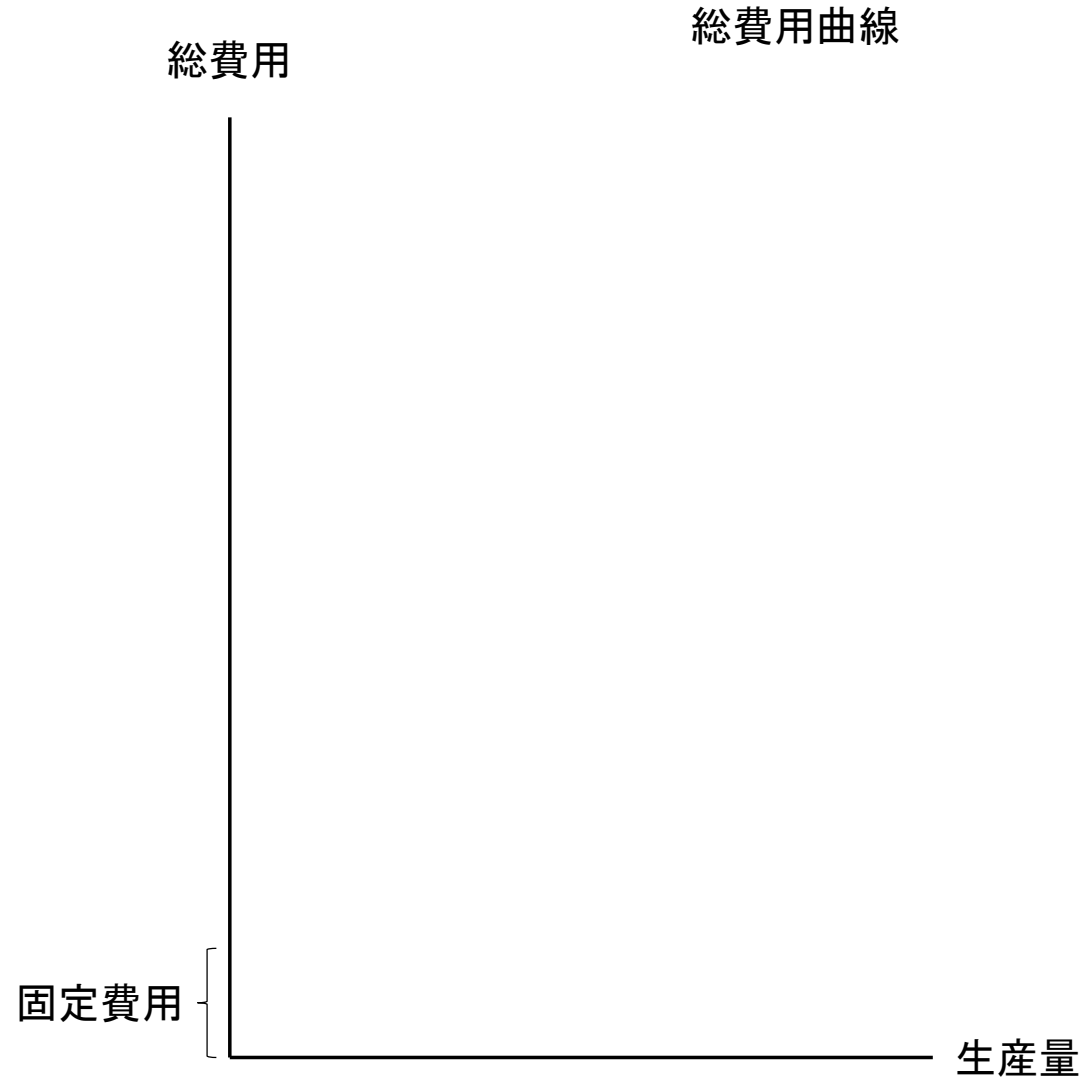
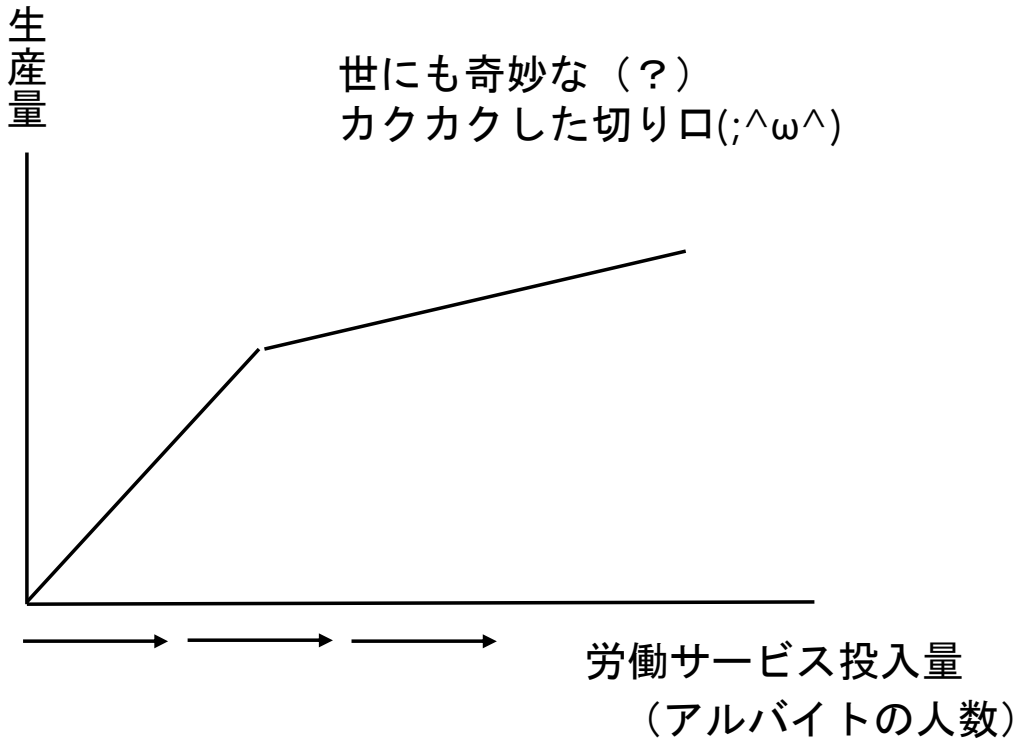
固定費用

生産量



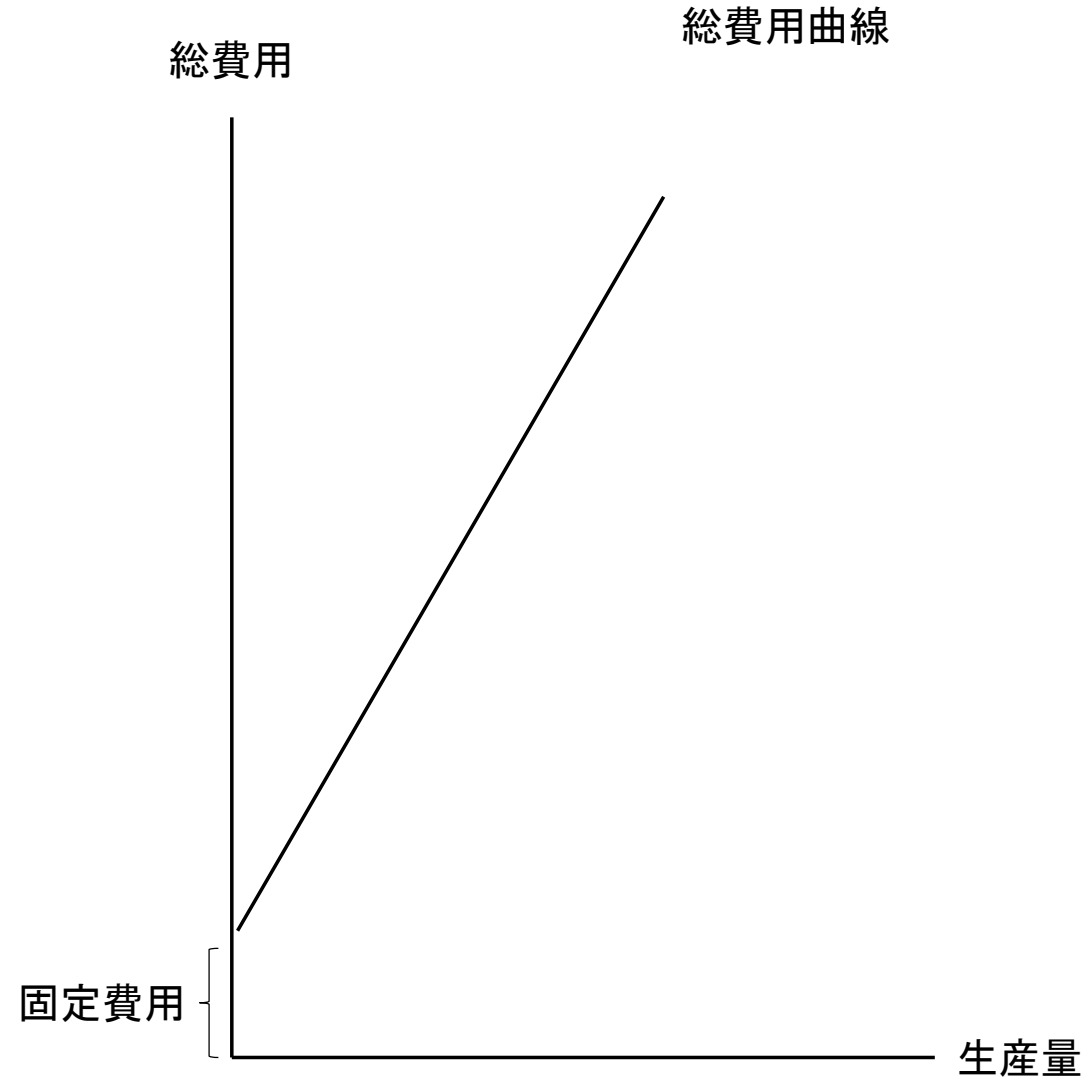
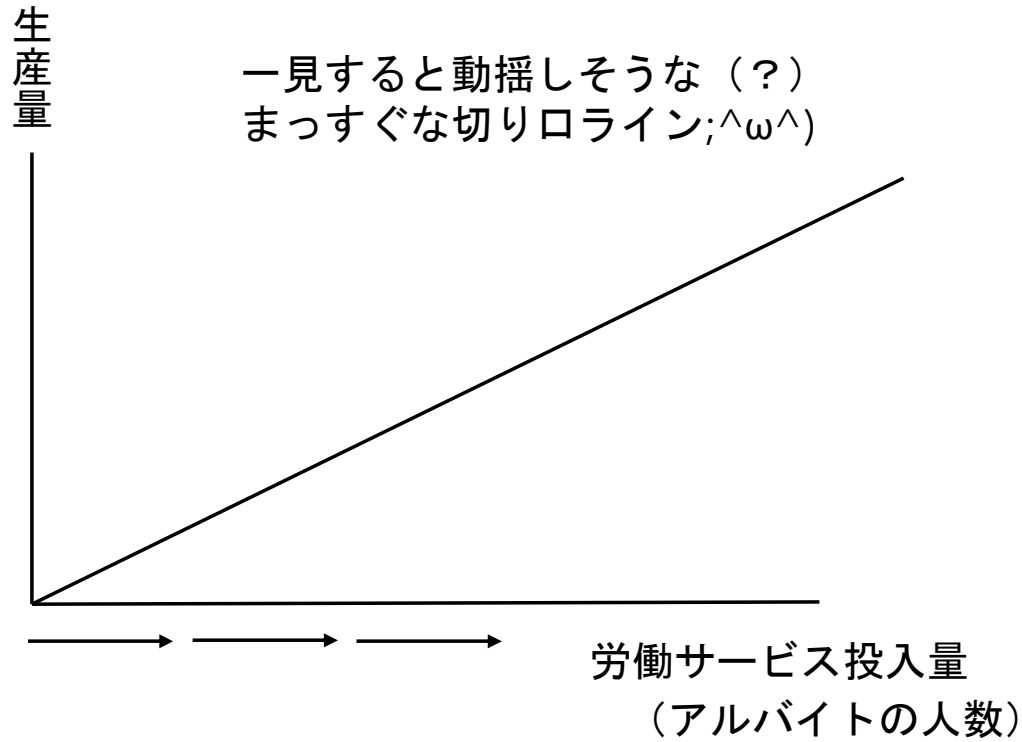
だったら、生産関数の切り口の形がこんなだと・・・

総費用曲線はどんなふうになる???



だったら、生産関数の切り口の形がこんなだと・・・

総費用曲線はどんなふうになる???



総費用

総費用曲線

総費用曲線 (=生産関数をひっくり返したもの)

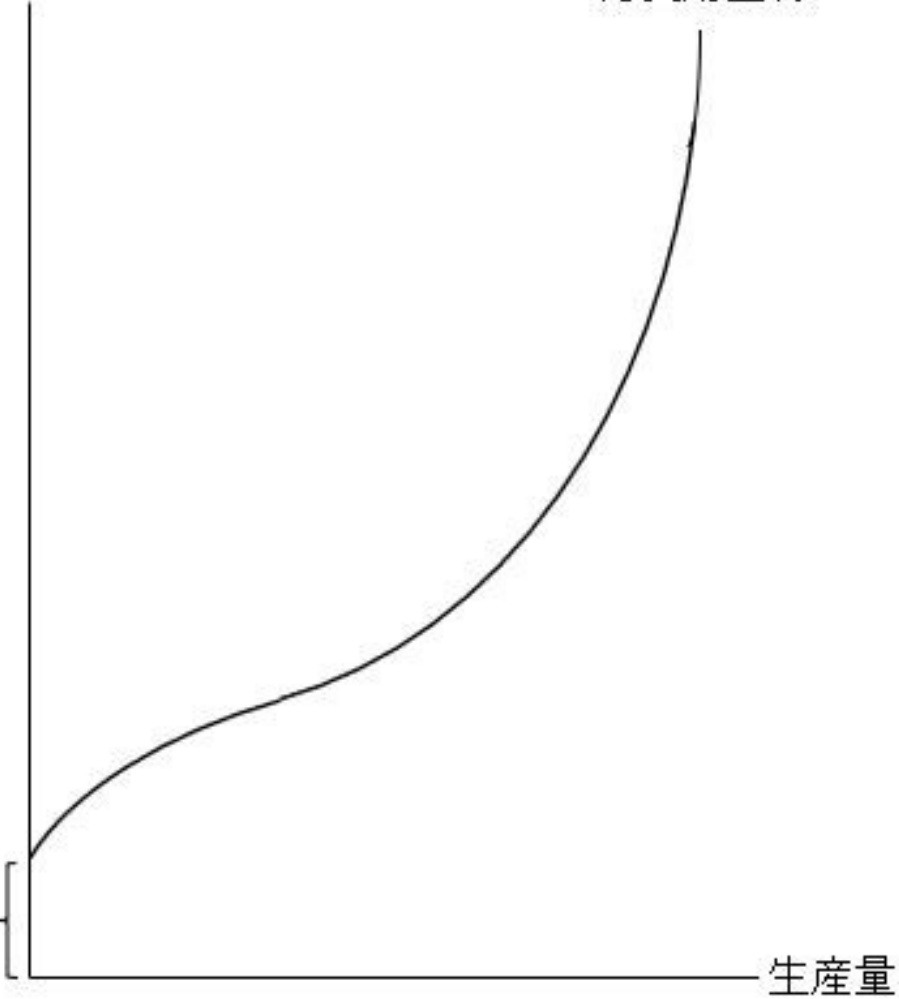
(ある量生産している場合の) 平均費用

(ある量生産している場合の) 平均可変費用

(ある量生産している場合の) 限界費用

固定費用

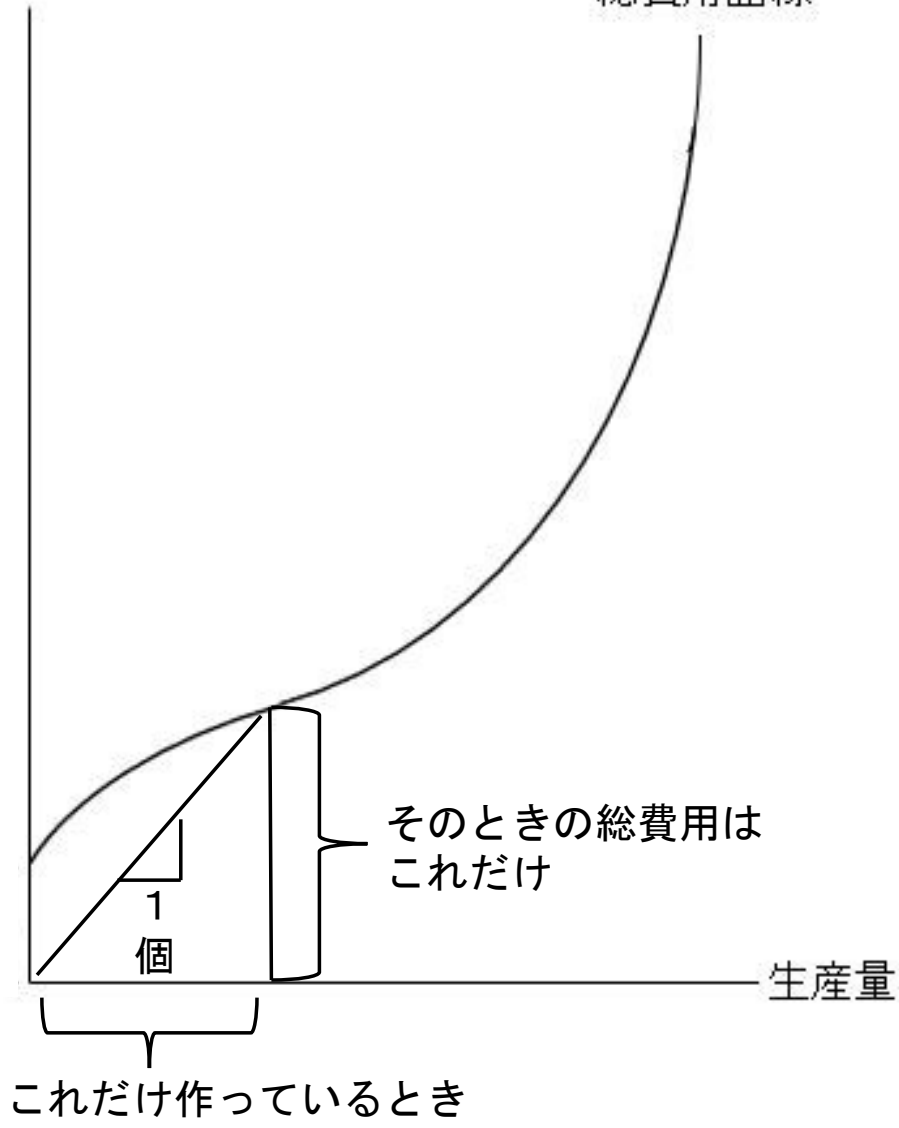
生産量



総費用

平均費用

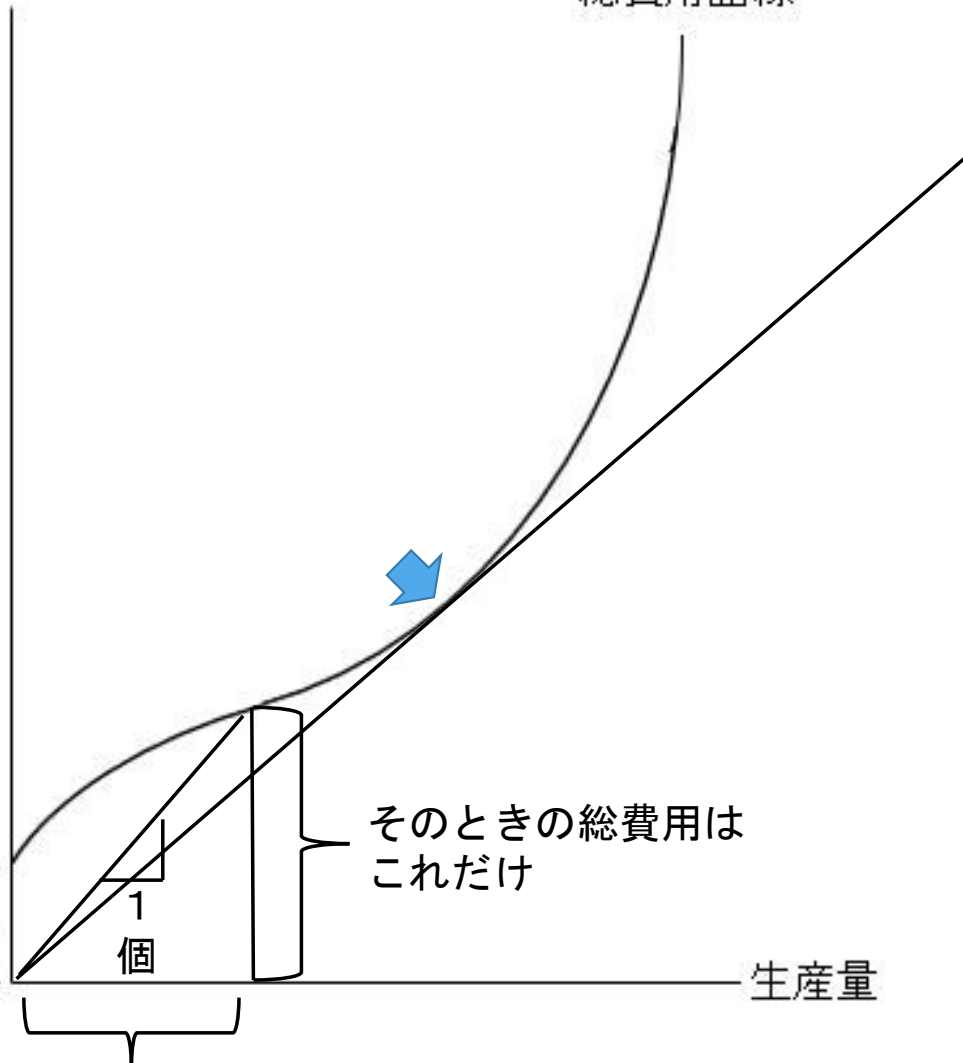
総費用曲線



総費用

平均費用

総費用曲線



そのときの総費用は
これだけ

1
個

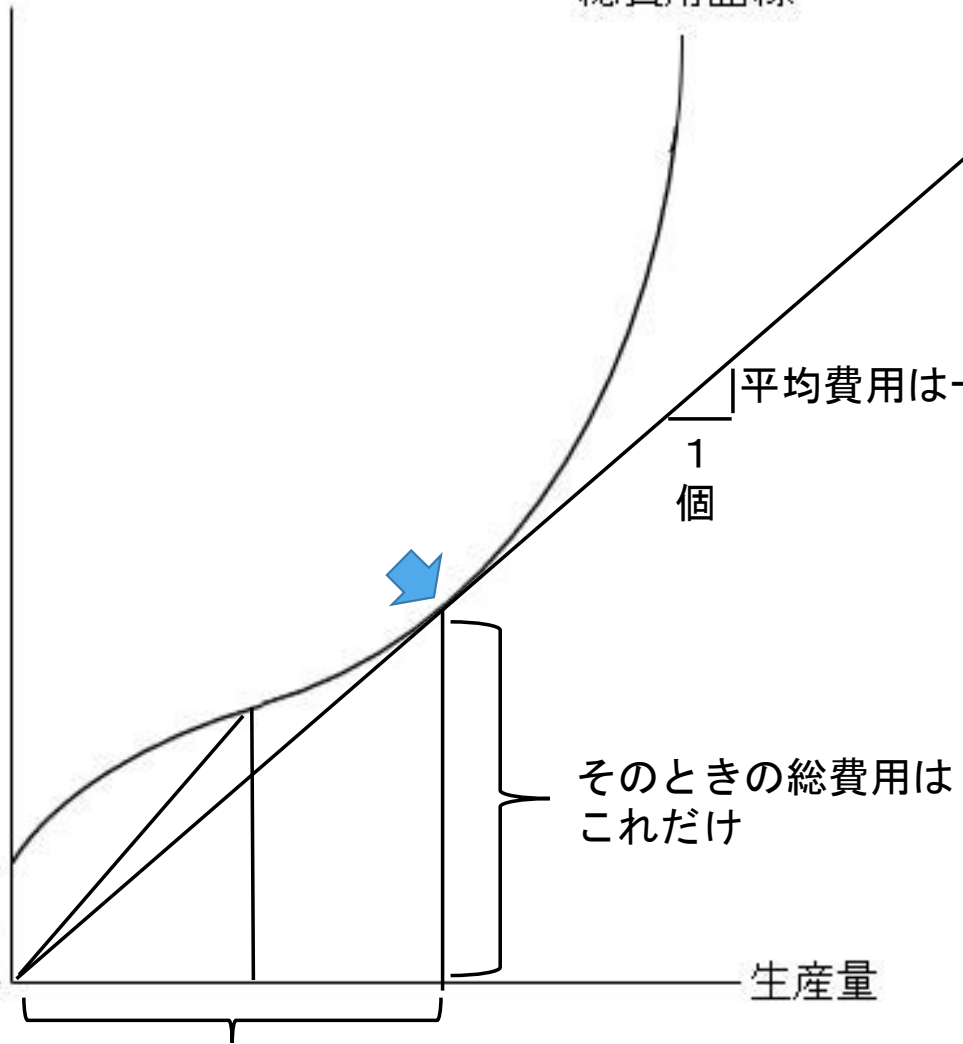
生産量

これだけ作っているとき

総費用

平均費用

総費用曲線



平均費用が一番安く作れることになる

1
個

そのときの総費用は
これだけ

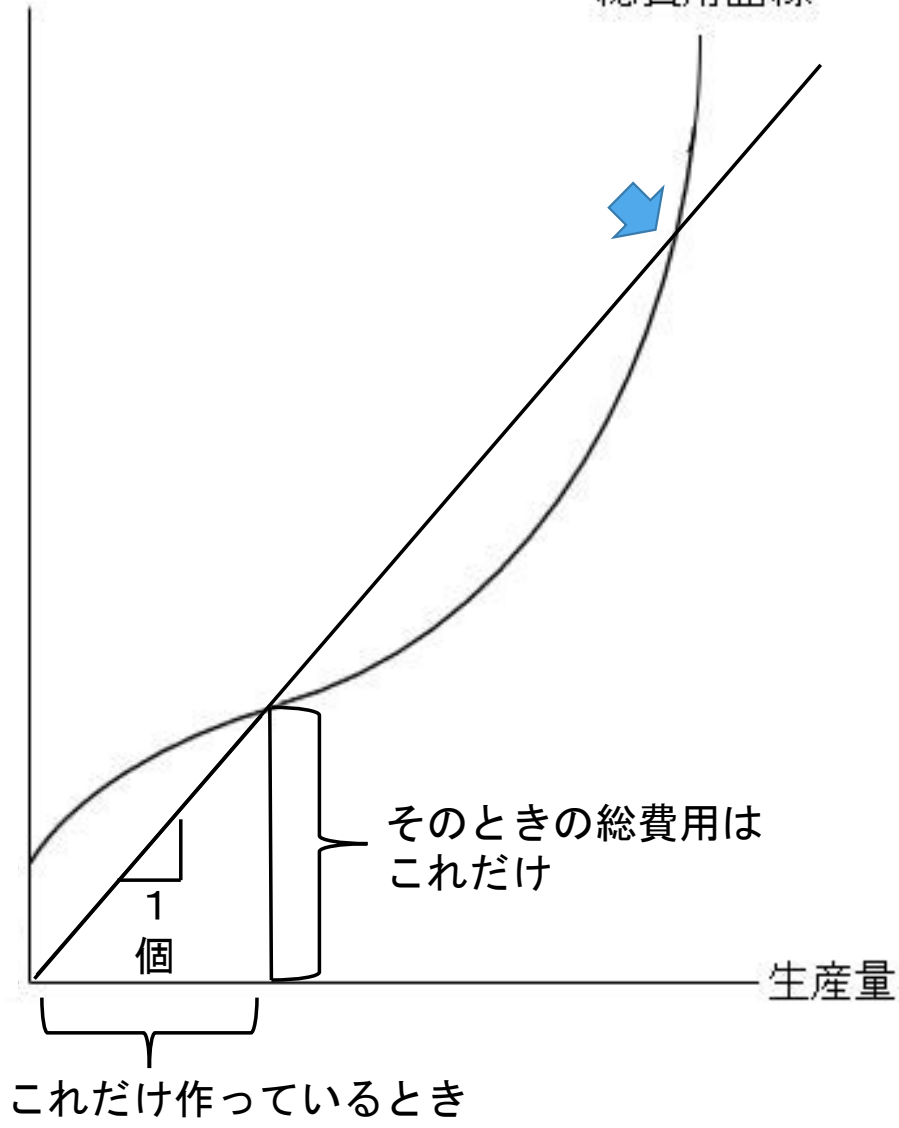
生産量

これだけ作っているとき

総費用

平均費用

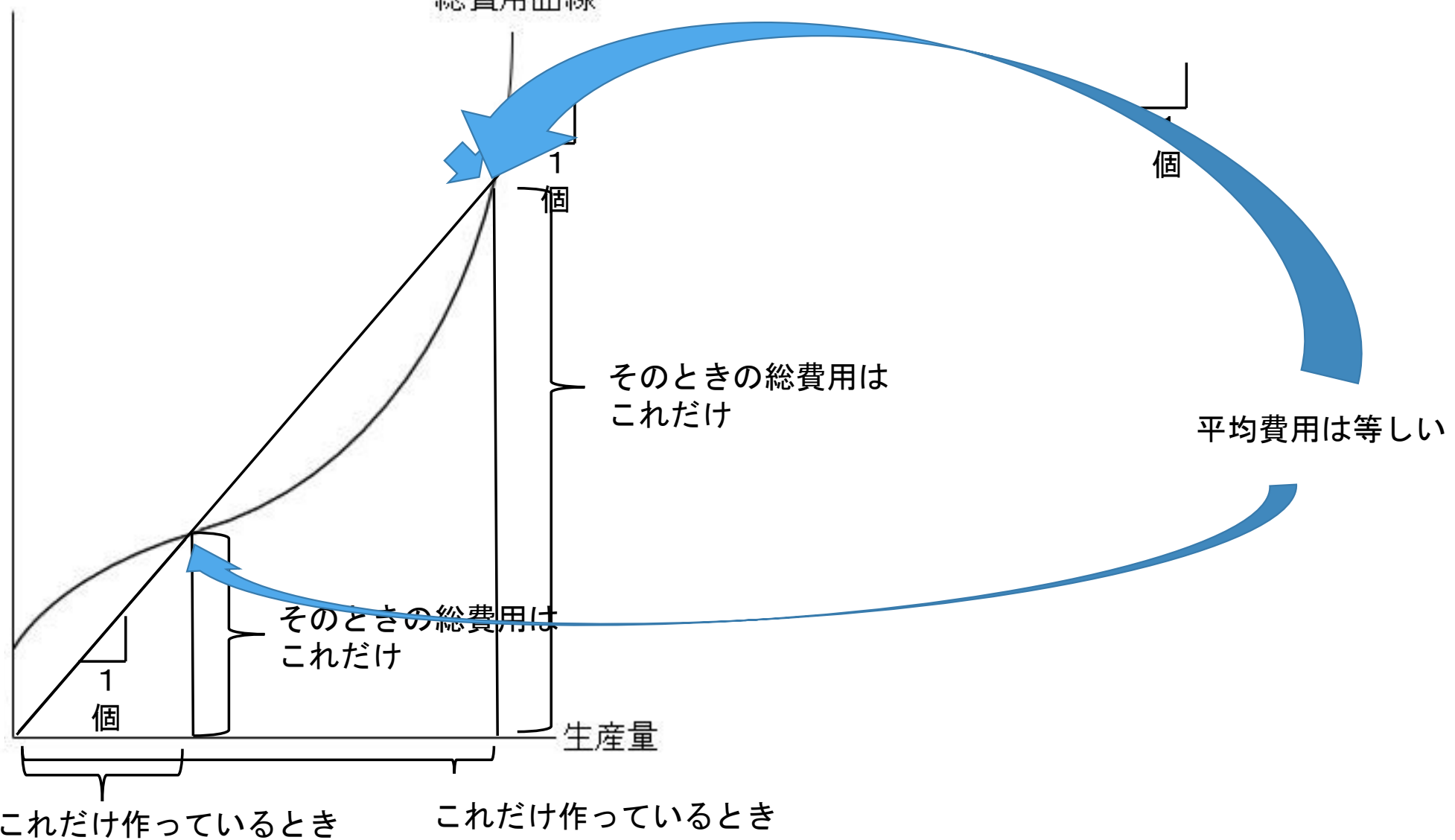
総費用曲線



総費用

平均費用

総費用曲線



そのときの総費用は
これだけ

そのときの総費用は
これだけ

平均費用は等しい

生産量

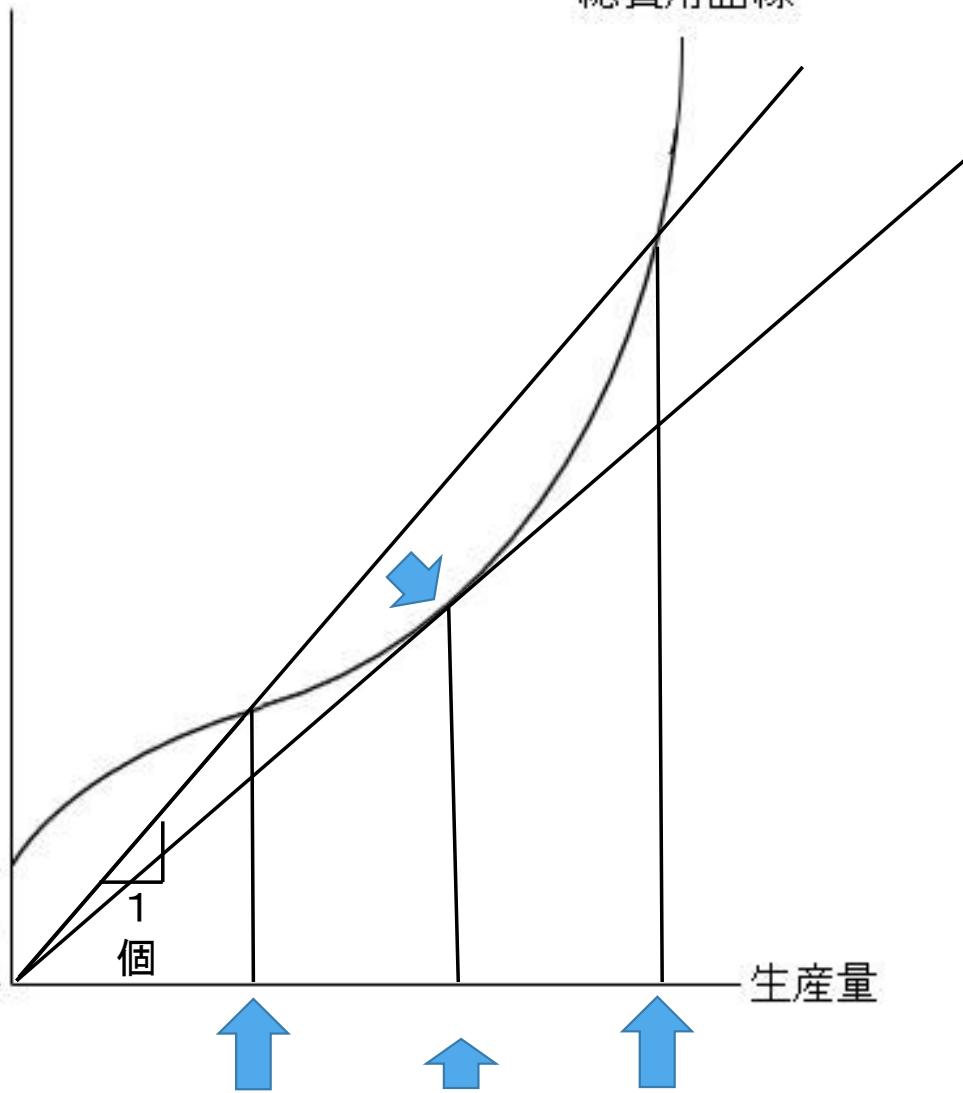
これだけ作っているとき

これだけ作っているとき

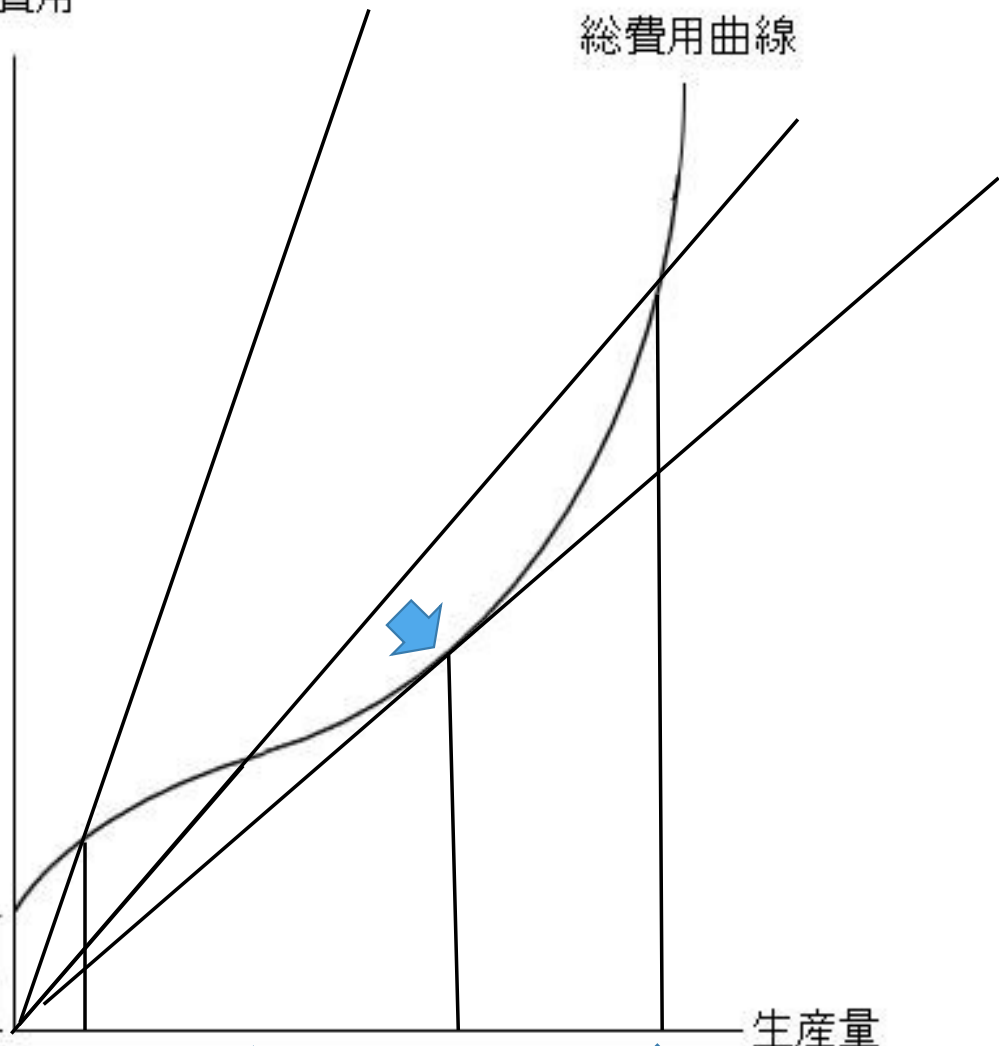
總費用

總費用曲線

平均費用

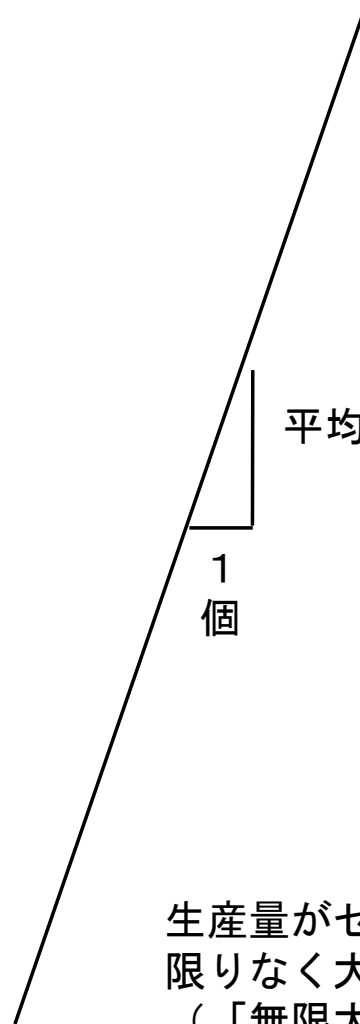


総費用



平均費用

生産量がゼロに近づくにつれて・・・

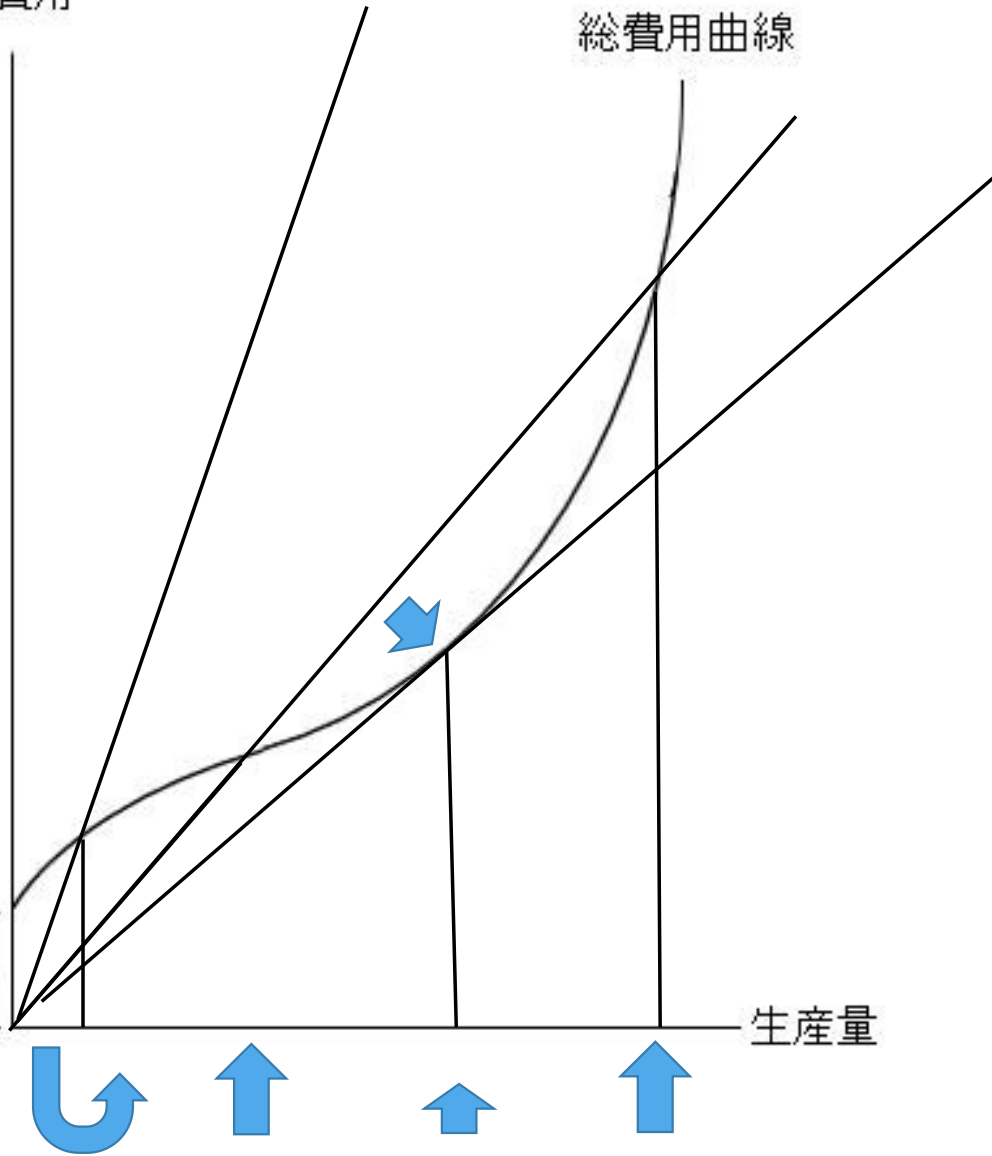


平均費用はぐんぐん伸びる

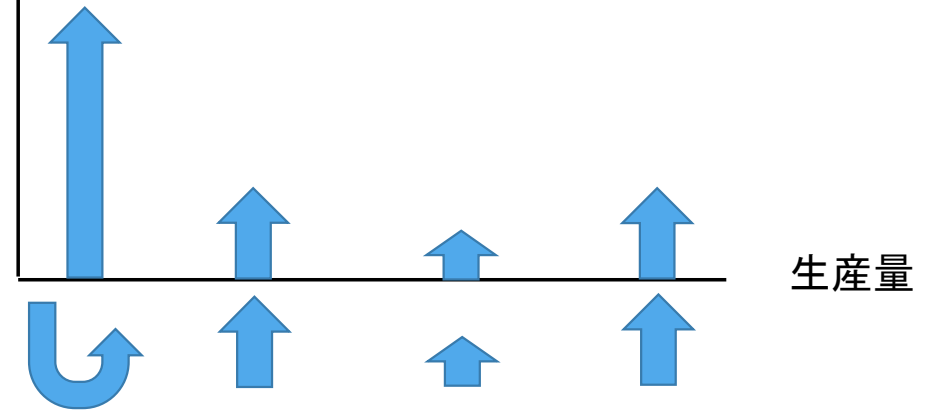
1
個

生産量がゼロに近づくにつれて
限りなく大きくなっていく
(「無限大に発散してしまう」)

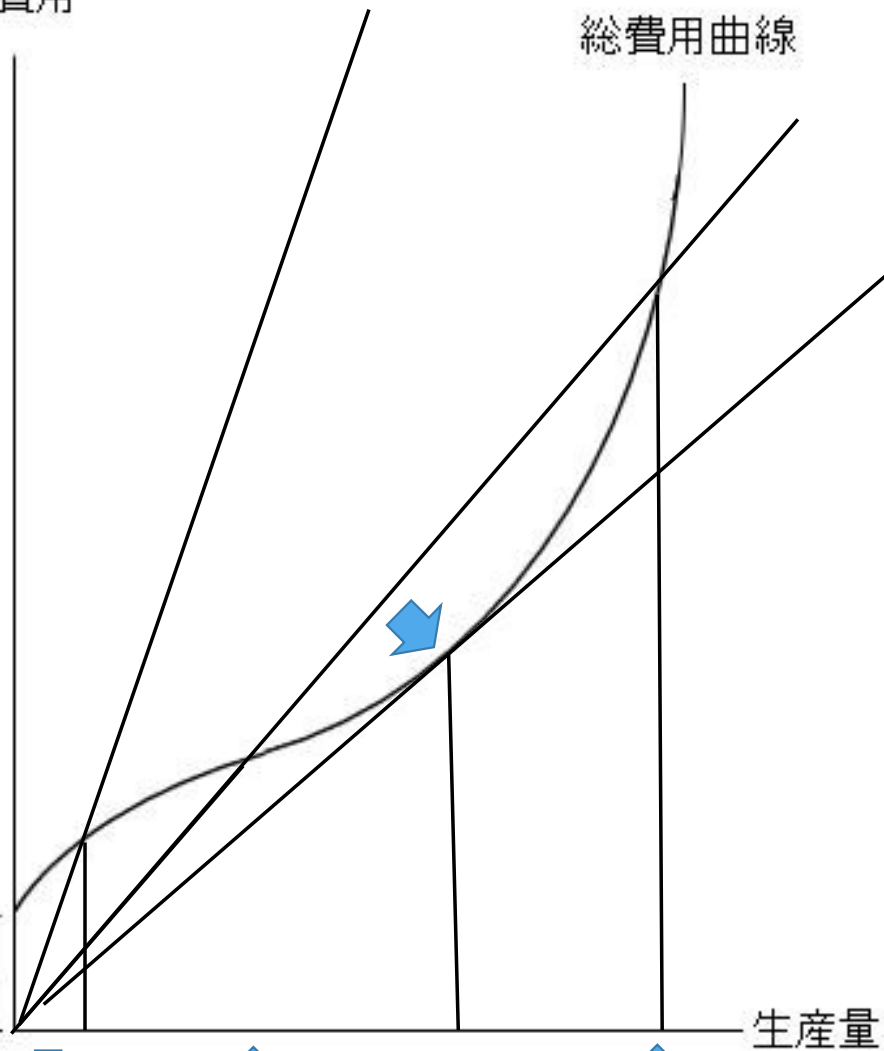
総費用



平均費用 (その量をつくっているとき
1個あたりはいくらで作っているか、
という額)



總費用



平均費用

